

令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

○11月9日(木) 15:30~17:00 場所:校長室

出席者 協議委員:山下 中上 森(和) 廣野 中尾

事務局:浅田 高田 中田 藤岡峻 荒木

次 第

1 校長挨拶

2 協議事項

(1) 本年度の学校経営計画(重点目標)の進捗状況について

(2) グローバルリーダーズハイスクール(GLHS)事業、

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の進捗状況について

(3) 第1回授業評価の結果について

・(1)~(3)をまとめて

学校経営計画については、現在各取組みを実施している段階でみなさまにお示しできる数値等はありませんが、引き続きこれらの取組みについて実施していきたい。1・2年生については、4月のスタディサポートではGLHS10校の中でも苦戦を強いられてきたが、模擬試験の結果では上昇傾向が見られた。各教科で何を理解し何が理解できていないかの振り返りを行っているが、これによって学習効果が上がったのではないかと考えられる。この振り返りについては、校長として着任以降継続して取り組んでいることであり、今後も取り組んでいきたい。教科では特に国語・数学の上昇傾向が見られた。一方部活動においては、写真部が写真甲子園2連覇を成し遂げ、新聞紙面にも取り上げられた。書道部も鹿児島で行われた全国大会に出場するなど成果を上げている。また、陸上部が全国インターハイに出場し、入賞を果たしている。水泳部についても、今年度は個人インターハイに出場するなど活躍をしている。

GLHSとしては、オーストラリア語学研修を久しぶりに実施できた。韓国の泳薫(ヨンフン)高校とは、SSHの取組みとして交流を開始して、すでにオンライン交流と現地下見を済ませているところである。ヨンフン高校とのつながりは今後も大切していきたいと考えている。SSHとしてはもちろん、韓国の教育方法から学ぶべきことを学び本校の教育に生かしていきたいと考えている。その他SSHとしては外部施設の見学や実習、校内での講演会などを総称して「ミラクルチャレンジ」と呼んでいるが、このミラクルチャレンジの企画数を今年度は増加させたうえに、単なる希望者参加だけでなく、一部理系生徒は参加を必須にするなど、SSH企画にはどんどん参加させるようにした。外部での研究発表についても、積極的なエントリーを進めている。

探究活動については中間発表段階ではまだまだ未完成であるが、成果発表会に向けて改善を重ねている。探究活動の外部発表では、大阪府学生科学賞で大阪府教育委員会賞を得る結果であっ

たが、これに満足せず、質の高い探究活動を進めていきたい。

英語検定 2 級の学校受験に関しては、現在見直しを進めている。英検 2 級取得者の英語力を他の指標で測定したところ、かなりのばらつきがあるとの調査結果を踏まえ、英語力指標としてより正確な指標となるものを実施していく方向で考えている。

・授業評価アンケートについては、年間 2 回実施しているが、前年度とそんなに大きく変わっていないが、今年度は府内の他校、他県校への視察や校内での授業の在り方研究など、授業改善には力を入れており、現段階では数値には反映されていないが取組みは進めているところである。

生徒の授業に対する評価は、年々辛口になっている印象があり、ほとんど数値が変わらないことは、実質の上昇と考えている。

また、設備に関しては、電子黒板機能付きのプロジェクターが設置されることになり、現配備のプロジェクターは、他の講義室や実験室への移設や余剰分は故障対応などの有効活用を考えている。

→ 取組みに関しては、今の内容で評価できるが、生徒目線で考えたときにどれだけの効果があったのかは検証が必要である。

授業に関して、いわゆる金融教育など社会に直結して役に立つ知識を取り扱うような授業ができれば生徒により興味、関心を持たせ、他の授業でも良い影響が出るのではないか。

→ 金融教育だけではなく 18 歳成人に係る教育を行うような、学校から社会に出たときの隔たりをなくすような教育も必要ではないか。

・現在成人教育は、家庭科や保健体育科の一部で取り扱っているが、これを HR で行えるかどうかを検討している状況である。現段階では進路に係る LHR を含め年間計画時にはあまり余裕がない状況である。しかしながら、学校として必要な教育は実施すべきと考えており、それが課題だと認識している。

→ 物事を批判的に捉え、疑問を持って自ら学ぶということはとても大切である一方社会に出たときに学校で教えてほしかったことは何かを尋ねたことがあるが、それは「失敗したときにどうすればよいか」ということだった。失敗してもよいということやその時の対応も含めて、社会とのつながりをもつような教育が充実されればなお良いと感じる。そのためには先生方も学校現場以外の社会に触れる機会を持てればと思うが、実際はなかなか難しいとも思う。

・学校現場でも他県の様子を知るだけでも、視野が広がると考えている。先ほどの他校視察も一部の教員ではあるが、他府県の様子から本校の教育に生かしていきたい。

→ 生徒の中で模試を受験する際に模試の範囲が授業で行われていない状況があったが、授業改善に取り組んでいると聞き、少し安心した。

・これまでの学校教育へのご協力には大変感謝をしている。次回が最終回となるが引き続き、よろしく願いたい。

(4) その他

3 事務連絡

次回予定 2月14日(水) また 15日(木) 15:30 ~ 17:00

→ 時期が近づいてからで上記日程を軸に調整予定。

資 料

- 1 学校経営計画
- 2 SSH事業の進捗状況について
- 3 第1回授業評価の結果
- 4 令和5年度 SSH・探究中間発表会 発表要旨集